

荒

筑

保存

第 18 号

福岡大学学術文化部会 書道部

詩 頭 卷

かくてかくものかがやけるものも

今はなく

草原のかがやける

かならず美しく咲きしとき

それがふたたび帰らずとも

なげくなかれ

のこされたものの奥にひめられた

力こそ見い出すべし

序

福岡大学書道部も今年で創立十七年目を迎え、ここに機関誌「荒鷺」を発刊できますことは誠に慶びにたえません。現在我々書道部員が活動できますのも、諸先輩方の努力の賜物だと確信致します。また今年は長い間、我部の部長として御指導下さった古田龍夫教授の退官を迎えており、退官記念パーティーも計画致しております。

また連盟の方でも我部が中心となり書酔会の再興に努力致しております。来年の書酔会総会は是非、開催する方向で持って行きたいと思っております。

現在の我部における諸問題等、色々ありますが、ここ機関誌の発刊にあたりもう一度、サークルというものを考え直してみたいと思います。

第十七代幹事

堤

寛

目次

巻頭詩

序
目次

(表紙裏)

十七代幹事

堤

寛

新しい部員諸君を迎えて

書道部部長

古田龍夫

2

サークル活動の意義

書心会会長

柴田一夫

5

年間指定席より油山をのぞむ

書心会副会長

遠藤信広

6

水と緑の那珂川町より

四十六年度卒O・B

高木正俊

6

「人間」

四十九年度卒O・B

山口達也

7

サークルにおいて

五十一年度卒O・B

山村昌次

8

人間関係

経済学部三年

高倉昌潔

8

心配またよし

法学部四年

松本健一

9

「ある時間」への思考

経済学部三年

飯尾裕美

10

「……らしさ」に思う

// 二年

岩野高利

11

新たな決意

法学部一年

久保山豪

12

春

商学部一年

扇寿美子

12

人間形成にともなうふれあい

経済学部一年

永井均

12

時には、自分に素直になつて

法学部三年

結城健

13

書道部に入部して

商学部一年

吉富利栄子

13

私と書道

工学部一年

島村友博

14

「下宿してみて」

// 二年

河野清文

14

花の一年生

経済学部一年

福田美由紀

15

アスファルトの上で

// 三年

高尾康弘

16

なぜ書道部に入部したか

薬学部一年

金丸祐恵

16

「青春の価値」

商学部三年

八尋厚子

17

「書道部」

法学部一年

高橋峰生

17

授業中に一考	商学部三年	堤	19
私の決心	理学部一年	郡	19
旅、そして	経済学部二年	松田	20
大学というところ	〃 一年	原田	20
サークルの味	法学部二年	米島	20
四年間ガンバルゾ	商学部一年	桑原	21
「はたちまえ」	〃 二年	高原	21
書道部に入学して	人文学部三年	木村	23
僕にとって書道とは	工学部二年	河野	23
「書道部」	商学部一年	原千	23
あこがれ	法学部一年	横山	24
この一年を省みて	商学部二年	鹿毛	25
峠への道	法学部三年	山口	25
校内での奴	〃 一年	上田	26
振り返って	〃 二年	川原	27
「春に思う」	商学部一年	八谷	27
「これから」	法学部一年	村瀬	27
我が下宿生活PART II	経済学部三年	嘉村	28
クラブ入部に際して	法学部二年	吉田	29
書道部に対して	経済学部一年	明神	30
白いあこがれ	薬学部三年	宮崎	30
大学生活に思うこと	商学部一年	田中	30
「運命」	経済学部二年	大山	31
教育ということ	〃 三年	高田	32
新生プロファイル			32
書道部規約			37
昭和五十二年度福岡大学書道部役員			40
編集後記			41

新しい部員諸君を迎えて

書道部部长 古田 龍夫

早いもので、私が書道部長になってから十年近くになる。そして、いつしか、私は停年を目前に控えた老教授となっている。そして今、新入部員諸君を迎え、歓迎の心を窮めて荒鷲に執筆しようとしている、また頭に走馬燈のごとく浮ぶのは、本学及び書道部の発展の歴史である。

私は、三十年前に本大学の創立にスタッフの一員として参加し、人生の最も重要な部分を本学において過ごしている。また、私が書道部長になった当初は、書道部は実に微々たる存在にしかなかった。しかるに、本大学の書道部の今日の大を成しているのである。何がそうさせたのであるか。それについては、本大学と書道部に共通したものがあると思われる。

また、本学発展の歴史は、同時に、本学の教職員、卒業生及び学生諸君が一丸となって戦い抜いた苦闘の歴史であったのである。政府の権力も財会の財力も借らず、すなわち学外の何等の力にも依存しないで、全く独力で、本学の今日を築いて来たということは容易なことではなかったのである。そして、このような独力で築かれた本学の社会に対する貢献に着目して政府や財会が援助するに至ったのである。かくて本学は、学外のいかなる力に対しても独力である。しかるに、官学は政府の権力の支配下にあり、他の私学の外は特定の人の寄附によって設立されたものであって他の支配下にある。これに対し、本学を支配するものは、

本学においてデモクラティックに構成された本学の機構のみである。大学の真髄は学の独立にあるのであって、この点において、本学は、大学の生活を満喫しようところの、他の大学に対して最も誇りうるものを有するということができるであらう。

およそ、団体の存在意識とその使命を決定するのはその団体の生成の歴史であって、その歴史が、団体に對する無言の教訓となるものである。このことは大学においても異なるものではない。本学を生成したものは、前述の通り、学内の一丸としての鉄の結束である。ところで、このような結束は、おのれを棄てた人間味溢れる心から生まれるものであって、決して、冷たい心から生まれるものではない。私が、私の最も尊敬する学内の先輩の先生方から耳の痛い程聞かされた言葉は、おのれを棄てて事に当れ、ということである。私は、いつも、このような精神が、本学を支配する傳統として脈打っていると確信している。

何事も一人で孤立してなるものではない。団体やグループの中に自己を生かしてこそ事は成るものである。本学の学園の傳統は、このような意味においておのれを生かす心構えを教えるものである。また、本学のゼミや部活動は、このような心構えを養成するエクササイズ（練習）の役割を果たしている。俊才としていわゆる一流の官学を卒業しなから、私のような年齢になっても、遂に志を得るに至らなかつたことを歎ずる者も少なくないのは、それは彼等か、本学のような傳統とエクササイズの機会に恵まれないで、冷たい心の持主に終っているからである。

人間の真の生甲斐、団体やグループや交友のなかに自己を生かすことである。私が、頭に白髪を載くこの年齢となつて、心温まる思いでしみじみと思い出されるのは、大学の学生時代に、本学の傳統のような精神

で友人に接した、この事あの事である、そして、胸痛む思いで想い出されるのは「冷たい心」で友人に接した、あの事、この事である。私は、部員諸君が、本学に誇りをもってこのような本学の傳統の精神で仲良く部活動に協されることを希望して止まないのである。

サークル活動の意義

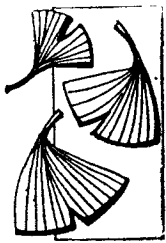
柴田 一夫

新入部員の皆様入部お目出とうございます。現在、社会問題化しているものに塾があります。オギャーと生れてからすでに塾の予備校生として教育ママから叱咤激励され、又期待されているのが現状です。皆様方も福大入試の為、予備校(塾)に通った方も多いと思います。では塾は何の為にあるのでしょうか。一般によく云われているのか、良い大学、良い会社に進む為の勉強であり、他より一步でも先ずるがための努力であります。私は塾がいけないと云うのではありません。塾には塾なりの効果はあると思います。皆さん方はすでに目的の一つは達成されています。西日本の雄である福岡大学に入学されたからです。では大学とは何であるか、前述からすると大学は社会の予備校でしかないものであります。

前置が長くなりましたが、社会又は会社は大学卒業生に何を期待しているでしょうか。一般の会社はズバ抜けた秀才は必要としません。まず新入社員に求めるものは第一に若さあふれる「ファイト」、次が現代の若者に欠けている「礼節」。この二つが他を大きく引きはなして会社が

希望する新入社員像であります。では大学はこの二つを教えてくれるでしょうか。新入部員の方はすでに大学生活に慣れてこられた時と思えますが、いかなる大学でも、この教科はないはずで。ここで如何にして社会が望むこの二つを身につけ、社会に役立ち期待される人間となるかよく考えるべきであります。大学で教科にないものを習うのがサークル活動であります。私が歓迎会で述べましたように大学生活においてサークル活動なしには考えられないのです。サークル活動を通じて和を知り、真の友を知り、そして礼節を知るのが、サークル活動の重要な科目であります。では礼節とはいったい何であるか、なぜ社会が望むのでしょうか。これは読んで字の如くで礼儀と節度である。

先日から話題となった阪大のジープン事件があったか皆さんは同じ学生として教授がとった行動に対してどう思われますか。私は教授に賛成します。授業を受けるのにジープンであろうと、スカートであろうと、又パンタロンであろうと授業を受ける気持には関係ないと云われるでしょう。しかし授業を受ける気持ちはあっても授業を受ける態度、学生らしい態度でしょうか。すべてにその人、その場、その時のらしさが必要ではないでしょうか。この「らしさ」が分らない人は礼節を云う資格はないと思われ、このようにサークルに於てファイトと礼節を学び期待される社会人となられるよう期待します。



年間指定席より油山をのぞむ

四十八年度卒業 遠藤 信広

平和台球場はプロ野球ライオンズ球団のフランチャイズである。ライオンズの試合の年間指定席はバックネット裏で六万円、ライオンズが勝ちこんで入場者の多い時は、これほどいい席はない。ところが近年、ライオンズの強い試合がなかなか見られない。負けがこむとさすがの指定席もバラバラ、球場全体に活気がない。じつに淋しいことである。

ところで話は突然かわりますが、書道部というクラブは本当にいいクラブだ。赤木先生がよく言われます。「書道部の下級生ほとかわいがる部員はいない。」と。

例を申せば、新学期、新入部員を迎える上級生の気のつかいよう。毛氈を敷き、墨を用意し、練習中は親切におしえてくれる。新入部員は招待され、満員の球場に指定席券を持って、正面ゲートから入場して人みたい。しかし新入部員諸君、指定席は年間指定席です。一年毎に立場はかわるのです。

現在の立場に甘えていて来年はどっします。球場へは行かず、ラジオ放送で我慢しますか、先輩はどうします。ラジオを聞いていますか、それとも缶ビールを持って外野席で見えますか、本当のファンは外野席でも充分楽しんでます。新入部員諸君、現在の指定席から外野席へ移ってみませんか。外野から見ると又、楽しいものです。

先輩諸君、先輩が来たら飲みかけの缶ビールでも分けて下さい！

水と緑の那珂川町より

四十六年度卒業 高木 正俊

先輩の皆さん、先輩のみなさんお変わりありませんか。私、四十七年に卒業し、那珂川町役場に勤務して早くも五年経ちました。荒鷲に寄稿の機会をいただきありがとうございます。部員の皆さん、練習日にお邪魔できればいいのですが、勤めて五年も経てば、何かと忙しく、出かけることができなくなっています。しかし、コンパ等の案内により知るところ、全員頑張っているので安心していきます。もうすぐ夏の合宿ですね。できれば一日参加したいと思っています。さて、合宿については役員を中心に、色々計画がされていると思いますが、書の勉強については少し述べさせていただきます。学書に三段階あるそうです。まず師授、次に臨書、最後に自運創作です。初段階として、師の肉筆手本によって練習するのです。徹底的に真似ることです。次に、古人の書によってその長所を学び、一つ一つ自分のものとするのです。今、皆さんがやっているのがこの段階です。したがって、「自分はこの種の字は嫌いだ。これは好きだ。」と最初から決めつけるのではなく、師の手本、古人の書を手当り次第、真似てみることです。この練習を積み重ね、自然と身体が覚えてくれると思います。この練習が、書道芸術における自己表現の基となると思います。この基礎づくりにも最もよい機会が、夏の合宿です。筆を握る指が痛くなるまで、心身共に疲れるまで書いてみてください。そして早く、第三段階への分岐点に到着するように、たくさん書き、多く

の人の書を見、多くの人の話を聞いてみてください。そして、これらの過程を踏んで、だれの手も借りず、自分の練習からでた自信と技法をもって創作した作品を、学生時代に一点でいいから作ってください。期待していません。又、学生時代のように何の利害も考えず、真剣に話し合える時間は今でないとありません。一生の友は学生時代にできるものです。後輩は先輩達の中に積極的に入り、先輩は時にはやさしい言葉を後輩にかけてください。

では合宿で

友遠方より来る
又楽しからずや

「人間」

四十六年度卒業 山口 達也

やはり人間何よりもまず考えなければならぬことは、強く生きるということではないかと思えます。そこで、強く生きるということはどういふことかと申しますと、それはどんな物事にも負けない肉体力、精神力を身につけることだと思えます。また、強く生きるにはどうしたらよいかそれは、すべてに對し目を向け考える。つまりすべてを師とし先生とすることです。そう思って生きていくならば、一日一日が実に楽しく無駄に生きることなしに、すなわち強く生きていけるということになる訳です。

今、私たちは書を勉強しています。書道というのは東洋です。しかし

一生涯東洋人に終わってはダメだ、世界人にならねばいけないと思えます。だいたい、東洋の人々は暗い感じを受けるようですし、西洋の人々は明るい感じを受けるようです。そこで自ずと東洋思想、西洋思想と分れるようになりました。

例えば医学において、今や慢性病は西洋医学では治らない（肉体面、精神面）と云われています。そこで最近東洋医学（針、灸、漢方薬……）が注目されるようになってきているわけです。今や西洋も東洋もない。それぞれのよい所をお互いに学び合っていくよう努力協力していかねばならない時代に来ている訳なんです。西洋の人が、東洋思想を学んでいるんです。柔道にしろ、茶道、剣道、合気道、小林寺拳法、禪、また私たちがやっている書にしてもそうです。彼らは真剣に学んでいるんです。私たちはもっともっとと広く、大きな、強い人間にならねばなりません。外国の人々に負けないように皆さん、多に学び、自分を強くしていこうではありませんか。

最後に、近い将来皆さんは就職されるわけなんです、会社を選ぶ場合について一言お話ししたいと思います。

大事なことは、今はどういう風に世界が動いているのか、またそれと同時に自分の欠点をなおしていけるような会社を選ぶことです。

それじゃあ、みなさん頑張りましょう。
強く生きるために。

昭和五十二年五月十六日



サークルにおいて

五十一年度卒業 山村 昌次

我々の存在する広義の社会は、決して自らの意志で選択したものではなく、現在ある家庭も自由意志の選択によるものではない。

しかし我々は、年令を経る事にあらゆる自由を身につけることを覚えるに至った。

大学に入学した事も自由であるし、書道部に入部した事も自由選択であると云える。書道部に入部した限りに於いて部員は其中で自由を持つし、義務を負う事になり、又それぞれの範囲内に於いて責任を持つ事にもなろう。書道部は組織である。書道部に限らず組織には受らかのルールがあり、良きにつけ悪しきにつけ、人間関係が存在する事になる。

しかし今、君達にあるのは現在部員であるという現実と、種々複雑な問題に対処せねばならない現実が存在するという事実である。いわゆる書道がうまくなる為に入部した者、友達を見つける為に入部した者と様々であろうが、そこには生活や利益や見栄の為に入部したのではなく、自由意志のえに入部したわけであり、先に述べた権利や義務や責任を組織に対し、組織人として自由意志の元に自認しているということである。

大学四年間のサークル活動は自己存在を確認し、人格形成や精神活動としての純粋な自己啓蒙の意味での課外活動であるといえる、私自身の過去の経験によれば、途中での退部者のほとんどは、一家庭の事情等

の理由とは別に真実は組織内で自己存在を確認する事の出来なかつた人間に他ならず、そこには組織（いわゆる小社会）自体並びに自己への「甘え」である。知らず知らずの価値観、道観、人生観等は、価値ある大学四年間の思考行動は社会に踏み出す大きな遺産となり、人格形成の一助と成り得る事であろう。

また例えば「練習と遊びとどちらか苦しいか」と聞かれたら、誰しも練習と答えるに違いない。いわゆる「練習は苦であり、遊びは楽である」というのが常識的な見方であろう。

しかし、練習にしろすべての活動にしろすべての活動にしろ苦しいからこそ、終わった時にその達成感や充実感こそ十分に味わうことができるのである。四年間をいかに有意義に過ごすかは自分自身の重要な問題であるといえる。諸君の大切な一時期を最大限に意義あるものにされる事を心から願ひ、今後書道部の発展の為、寄与されるよう切望したい。一すべての部員に均等な苦しみと喜びを！

「人間関係」

経済学部三年 高倉 潔

サークル活動に於いて、ややもすればとかく見失なわれがちで、かつ重要な事、それが人間関係かと云う言葉ではないだろうか。

書道部に居るのだから書道を一生懸命追求して、上達させる事が、確かに最も重要な事も知れない。書道はあくまで個人プレーである。しかし、個人プレーであるか故にサークル活動を円滑に行なう為にも、な

おさらこの人間関係という事を考えずには居られないし、大切にすべき事だと思ふ。

広く、人間が生きてゆくのは決してきれいな事ではないだろう。どちらかと云えば、鬭争、かけひき、エゴ、感情のもつれなど醜い場面か人間の生活の大部分なのかも知れない。まして社会に出れば利害関係も交わり、なおさらの事が予想される。

そこで我々は今、学生という立場にあり、しかも限られた時間に、少しでも充実した生活を有意義に送られる所、また、純粹とまでは云えなくとも、それに近い人間関係が得られる所、それがサークル活動と云う事ができるのである。ここで云う人間関係とは、表面的なものであつてはならない。美辞麗句を並べたてた、上っ面のつきあひは簡単である。云うまでもなく、互いを知り、腹を割って話す事のできる友人が眞の友人だと云えるであろうし、大学生活に於いて、それがつとより早くできる所がサークル活動でもある訳だ。

しかしながら、反面、人間関係ほどもろく壊れやすいものもない。何事でもおよそ破壊するのは簡単だし、いつでもやれる事だが、建設するのは困難で、努力と忍耐と時間を要する。クラブを去っていった殆んどの間人はこの人間関係のもつれにあると云つても過言ではなからうし、それに耐える事ができなかったのであらう。

こうした事から考えると、人間関係は本人の心掛けしただけで成り立ちもし、また壊れもするといった位、サークル活動を左右する、非常に大きな要素を持っている事に気づく。

せっかくやっているサークル活動、クラブは役員がやっているのではない。とりもなおさずサークル員一人一人が手を取りあい、"和"とな

って築いてゆくものである。ある程度共通した目的を持って集まつた我々だし、共に苦勞し、お互い精一杯の努力をして困難な目標を達成した時、そこには信頼が生まれ、眞の"人間関係"が育つてゆくのではないだろうか。

我々はこの貴重な時間を無駄に過ごす事なく、その時その時、よい幹えれば、"く"をもっと大切に生きるべきではないだろうか。

人間関係は待つて得られる様なものではない。自分からぶつかつてゆかなければ眞の人間関係は得られないのである。そこには自らを犠牲にする事も必要な時もあるであらう。しかし、それだけの報いは必ず自身に返ってくる筈だ。

ここで云いたいのは、"人間関係は叫ばれるものではなく、実行されなければならない!!"と云う事だ。

心配またよし

法学部四年 松本健一

最近、何の心配もなく、何の憂いもなく、何の恐れもないという人生になればと思う。しかし、実際はそうではなく、何かの心配があり、憂いがあり恐れがある。

動物園の動物は、飢えの不安もない、他の動物から危害を加えられる心配も何もない。きまつた時間に、色々と栄養ある食物が与えられ、保護されたオリの中で寝そべり、アクビをし、雄々たるものである。しかし、自分がオリの中の動物だとすれば……満足するだろうか？

の心はわからないけれども身の危険にさらされながらも、果てしない原野を駆けめぐっているときのしあわせを、時に心に浮かべているような気がする。

一切、何の不安もなく、危険もなければ心配もなく、したがって苦心する必要もない。そんな境遇にあこがれることがある。しかし、はたしてその境遇から目的が生まれるだろうか？

右すべきか、左すべきかの不安な岐路に直面した時、しりごみしてはならないと思う。心配するのでもまたよいのではと思うし、心配する事や憂いは次への一段階だと自己満足している今日である。

何かにぶつかってオリの中の動物になりかけた時、こういうこともまた考えたい。

「ある時間」への思考

経済学部三年 飯倉 裕 美

静かな部屋に一人。いつしか現在という粹を越えて、命名することの不可能な世界へと誘い込まれる。やがて、迷路のような物語の幕が上がリ、目前でストーリーは展開してゆく。いつの間にやら自分はヒロインと化し、ある時は誇らしげに微笑み、ある時は憂うつそうな風情で、じっと立たずむだけであったり、またある時は勇ましく何者かに戦いをいどんでみたり……限りを知らず映像は進展する。

ふと我にかえり、そのような世界に迷いこんだ自分をバカげていると嘲ってみれば、少しだけそんな自分にむなしさを感じてみたりする。今

まで見てきた映像は、自己の日常茶飯事の中から生まれてきたものであろうと推測する。たとえ、それが現実と多分に分け離れた種のものであったとしても、根源は一つなのであり、日々ちよっとした印象の中から蓄積され、創造されたものであるに違いないのだ、と思うと逆に今度はさっきまでの映像の構成分子を現実求めて思索しはじめ。

こんなことを何度となく繰り返す。

いつのまにか現実の時間は多分に費やされてしまっていることに気づき、浪費してしまった「時間」に対して、後悔の念をいだいてみたりもする。だが、一概に時間を「浪費」したとはいえない様である。なぜなら、それらの時間の中では、自己の何らかの能力が（それは想像力であるかもしれないし、思考力でも、また他の能力であるかもしれない）、有意義にかつ精一杯、それなりに活動しているのだと仮定し、またそこに、一種の快楽をも覚えることができたならば、費やされた現実の時間というものは、浪費どころか有意義に使われたのであると断定できそうであるから。しかし、こうやって浪費した時間を後悔する反面、一日の中で一番充実した時間であるといえそうな気がしなくてもないのであるから不思議だ。

「時」の過ごし方は、人それぞれ多種多様であり、かつまたその一時への印象もまちまちであろう、他人から見れば「あの人はなんて時間を無駄にしているんだろう。」と指摘されそうな時間の過ごし方を自分自身にできたという気がしてならない。

だが、今夜もまた一人。雨の奏でるワルツを耳にしなから、とりとめのない世界へと自分を送りこみそうである。

「：らしさ」に思う

経済部二年 岩野高利

僕は「：らしさ」という言葉が好きだ。

男らしさ、若者らしさ、学生らしさ、そして半ばあこがれの存在となってしまう女らしさ。しかし、たった三文字の言葉の意味を考える時、「何て難しい言葉なんだろう」という気持ちをおさえることはできない。何せ「男らしさ」という言葉ひとつに対しても、人それぞれの考えがあるだろうし、ある人の考える「男らしさ」は、もう一人の考える「男らしさ」であるとは限らないだろうし……。まして、「女らしさ」についてとなると、身勝手な？男どものいいだすことは想像もつきかねる。結局いきつくところは「：らしさ」という言葉のもつ世界の広さと深さに対する驚きである。そして自分は？と考えると、おそらくは「：らしさ」など全く持ち合わせていない人間のように思われ、何ともいえない気持ちになる。それでもいつの日か誰かに「：らしい」という言葉をかけられる日がやってくることを願っているのである。



洋菓子の欧州

COFFEE

&

イワナガ
軽食

福岡市西区片江西1257 高木ビル

TEL 861-3869

平 助 筆

筆・墨・硯・紙・書道用品

復 古 堂 本 店

福岡市中央区春吉3丁目3街区9号

TEL(761)5122(761)0884

新たな決意

法学部一年 久保山 豪

学生生活も残すところ四年間弱となった。

今まで自分がやってきた事は、みな中途半端で一つも思い出に残っていないような気がする。このままの状態です。大学四年間を過ごしてしまえば、僕の青春は、空虚なものになってしまうのではないだろうかという不安にかられている。そこで僕は、クラブに入部しようと思った。

実際書道部に入部して約一カ月程になるが、先輩方も皆各々個性をもっておられ、なかなかユニークなクラブだと思う。もちろんみんな書の腕前はりっぱで、僕も早く上達したいと思つている。四半間という短い時間でどれほどの成果がみられるかわからないけれど、部員同志の和を保ちながら、青春の良き思い出になるように頑張ろうと思つています。

先輩方どうぞよろしく御願ひします。

春

商学部一年 扇 寿美子

とても嬉しい春になりました。久し振りにのんびりと、そんな日々が続いてます。

中学を卒業する時、正門に「若人我ら、今日完全燃焼す」と書いてあるのに気づいて、驚きました。この三年間、完全燃焼した日が幾日あったか、目の前だけを見つめていたのでは？

高校に入學して、友と語り、騒いで、ある時は悩み、いえ、みーんな悩んで大きくなったあーアレ？ その真ただ中にいる時は何も意識しなかったのに、卒業の時、高校生活の思い出は、いったい何をしたら、何かしら物足りなさを感じました。

今、入部してほんのひと時ですが、心が弾んできます。ああ、一今日完全燃焼！と言えり口がもうそこに來ている。

人間形成にともなうふれあい

経済学部一年 永井 均

高校の時のようにたくさんの方達かほしいと思つて、大学では、講義のたびに必ずといていいように横に座る人か変わる。これでは、友達ができるような要素はほとんどない。

そこで考えたのです。書道部に入ろうと。昔、少し習っていたので興味がありました。

書道部、そこで友達ができると思つ、また、そこは人間形成の場でもある。クラブの説明会の時、幹事さんがしきりに、「人間形成がとても大切だ」としきりに主張していた事を思い出す。人間形成にあたって、僕は、人と人とのふれあい、とても大切だと思つ、部の中で、ふれあいという芽がおおきく脹らんでほしい。われわれみんなで大切に育てていきたいと思つ、それを育てる義務のある一員としてこれから頑張りたい。

夏の合宿など積極的に参加して、早く書道部の一員として溶けこんで

いきたいと思う。

そして、少しでも早く実力の点において、先輩達の足もとにも及ばないが、これから、人間形成にともなうふれあいと実力上昇という点に、これからいつも気を配りながら頑張っていきたいと思う。

FIGHTなのです。

時には、自分に素直になつて……

法学部三年 結城 健

昭和五十二年五月十四日(土)、午前一時二十五分。ここ数日、雲行きが怪しいと思っていたら、正午を過ぎたあたりから雨が。

梅雨の前兆だろうか、それとも、もう梅雨に入ったのかな。

梅雨は嫌いだ。だいいち可愛らしさがないし謙虚さがない。

これ以上は我慢できないという限界まで、重そうな体でありながらどうにかこうにか風に乗って、目的地を定め僕等の不安をかりたて、降り出したら降り出したで一日二日ではやすやすとひきさがらない。

僕等してみれば、彼等は本当にくたらしい存在だ。でも二日市のお百姓さんしてみれば、恵みの雨だそうだから、せいぜい僕に出来るのは、こんな紙面を借りて日頃のうつぶんを払うにすぎない。

聞く耳を持たない相手に、いくら大声で叫んでも、せいぜい僕の声がかかるのが積の山だからなア。

でも反面、今年も、にくたらしい時期になったんだアという、僕だけの秘密の喜びがある。それは、日本では梅雨がないと夏になった気が

しないという、いわば慣れみないなものであるからだ。

何も夏のあの暑さが好きだというわけじゃないし、また、女の子の服装の変化に一人いやらしくニタニタできるからでも、もちろんないのだ。(強調と断定の助動詩使用。)

夏、家族の皆んなより、いち早く起きて庭に出てみるのが楽しみなのです。

それは、闇の精が全ての草々の肩に、一晩かかりで創り上げた水の結晶に、心を洗われた思いがするから。

僕も、この一日一日を、また一生をこの水の結晶のように純粋に生きて行きたい。

書道部に入学して

商学部一年 吉 富 利栄子

書道部に入ってよかったです。友達がたくさんできて、先輩の方々も親切でもう一面の大学生活の楽しさを知ることができました。入学する前は両親から書道部への入学をものすごく勧められて、あまり書道の経験のない私が皆さんについて行けるだろうか、とても悩みました。しかし説明だけでも聞きに行ってみようかと思ひ、先輩の話聞いているうちに先輩の方が一人との交流の間に書道をやる一と言われ、その言葉に今まで悩んでいた心を動かされ、やっと入学する決心がつけました。

入学してからというもの、書道が楽しくなりました。まだまだヘタだ

からいろいろ注意されますが、その注意もしっかり聞いていつかは先輩たちの様に上手に書ける様になりたいなと夢見ています。それから入ったばかりですけど、書道というものは大変難しいものだと感じました。自分が思う様に筆の方は動かないし、修行が足らん、と思ひ、こんなことで大丈夫だろうかと心細くなったこともありす。しかし一生懸命練習すれば上手になるものと信じ、これから精一杯励んで行きたいと思ひます。

書道部のもう一つの楽しさは、コンパで書道から離れた人間関係が合流するときです。私はお酒はあまり飲めない方ですが、いい先輩がいらっしやるので強くなりそうです。とにかく、今の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思ひます。

私と書道

工学部一年 島村友博

私をはじめて筆をもったのは、小学校の三年の時でした。といつても自分の意志で習いはじめたのではなく、姉が習っていたのでそれにつられて習いはじめたというだけです。そういうあやふやな理由だから、もちろん二年間やってもさほど上達しませんでした。それからというもの私と書道とは、まったく無縁なものとなっていたのです。しかし今、私は大学の書道部にはいっています。それを私に決定させたのは、何とたった一枚の年賀状でした。それはもちろん筆で書かれてあり、限定されたハガキの中にきちんとおさまった生き生きとした文字を、私に見せて

くれたのです。その時、私はその文字一つ一つに強くひかれ、自分でそれを書けるようになりたいと思つたのです、そういう理由で入部した福大書道部、どこまで上達するかわからないが、可能な限り続けていきたいものである。

「下宿してみて」

工学部二年 河野清文

下宿してまた一年もたないんですけど、部屋へ入ったら、気持ちの落つく所だと思ひます。下宿して、自由時間（勉強に励む時間も入れて）が増えたとし、自由気ままな生活（親の目を気にせず）が出来るようになりました。そんな自由時間をどのように四年間？有意義に、且つ、最大限に自分の為の為に他の為に過ごすかというのが一番の課題になりました。

しかし、よく考えたらその時間こそ、大学生活に於いて大切な時間だと思ひます。なぜなら、その時に個人個人の人間性が生まれるからです。一歩間違えば、人生が灰色になりかねないし、又、逆に将来に期待か持てるようになるからです。なんだか、自分か書いているような気がしなくなつたので、これで止めます。

本題に戻りますが、下宿はともよい所だと思ひますよ。自分だけがそう思ひこんでいるのかも知れませんが、自分の下宿はとても静かで、よい環境に恵まれています。鳥がチィチィ鳴くし……。ともすれば、ジャラ ジャラ……という音かほんの時々心に感いをおこすのですが、また、静かな所で、ただ自分一人だけで筆に墨をつけて、白紙に打ち込む

のもよいですよ!! (まだ自分はしたことがないんですが)。

又、下宿してから色々変わった。おもしろい人や、あれが大学生だろうかと疑うような人達がいっぱい、様々な人間に接するもってこいの場だと思えます。

まだ下宿経験のない多くの諸君(新入生)ノ一度は下宿しても損はないと思えます。下宿してみるのもいいですよ。

花の一年生

経済学部一年 福田 美由紀

高校時代、私は勉強に打ち込んだ訳でもないし、かといってクラブ活動に打ち込んだ訳でもありません。中途半端な自分をいつも情けないと思っただけです。ですから、大学に入ったら、きっと、何か一つの事に打ち込もうと思いました。

友人や先輩もたくさん欲しいと思いましたが、サークルに入ることにしました。

正直なところ、書道部に入部する事には少々、抵抗を感じていたので。何か一つ身につけたいとは思っていましたが、その何かは決めていなかったのです。書道部なら両親も入部を認めるということでした。他に入りたいと思っていたサークルがあったのですが、書道部も嫌いじゃないから...、などという、曖昧な気持ちで入部しました。こんな事で続くのだろうかという重苦しい不安でいっぱいでした。

しかし、その不安も、練習に参加すると消え去ってしまい、頑張っ

炭 火 焼		二階宴会無場	
焼 と り	清 盛	宴会された方 フルーツサービス	
清盛子エーン店		清 酒 1 杯	180円
本 陣	中央区六本松4丁目9の40 TEL 771-9397	焼 酎 //	100円
	731-4634	ビ ール 大びん杯	280円
博多駅前陣	博多区博多駅前3丁目 TEL 471-9312		
	ビーエス博多ビル1F //	生ビール 中ジョッキ杯	290円
提の陣	西区大字提114番地 TEL 861-5929		

書道用具専門店	
雲	峰 堂
書	道 美 術 社
〒 812 福岡市博多区下川瑞町6番113号	
TEL 281-1550	

みようという意欲に変わっていました。何事も、まず実際にやってみるものだと思います。

今では、練習のある日が待ち遠しいくらいなのです。熱の籠った練習のあとの、あの充実感がたまらないから……。

すばらしい先輩方や友人に囲まれて、今、書道部に入部したことを心からよかったと思うのです。一生懸命、先輩を学び、友人を学び、自己を高めたい。

今までの私になかった“やる気”があるのです。自分でも信じられないくらい……。

アスファルトの上で

経済学部三年 高尾 康 弘

アスファルトの上に立ち並ぶビルディング。その谷間に立てば、吹き上げる風は強く、髪は乱れる。その巨大なビルの中では、大企業か高椅子にすわり、ワイロ工作に精を出す。ビルの谷間では、一人の人間か一生懸命働くが、たかが知れている。それ以上の利益を求めて詐欺行為へと進む。それは、その相手とは、もう逢わないことを前提としている。しかし、通常的に取引が盛んになると、その一回分の不正行為の利益の二倍・三倍の損失を払うことになる。従って取引が進むにつれて、自然的に取引上の正当な秩序ができあがり、その人間はそのビルの階段を登り始める。一人の悲しみにくれる人がいる、私はその人に、雑踏の中に出ることを勧める。部屋の中かで一人になれば、悲しみはつのるばかり。そこで身近な者に同情を求める。これは小さなコネにすかることで

ある。しかし、大勢の人間の前に出れば、自分を押さえざるを得なくなる。肩を落とした人間に何人の人が立ち止まって、手をさしのべてくれるだろうか。これが現代の世相である。小教社会における利他心は、もはや大社会では利己心にとつてかわる、ここで出てくるのが、一人一人の思想である。アスファルトの上にも、「自分一人」の思想が多々あるものです。アスファルトの上は車だらけ。車が渋滞すれば、行政機関は車の乗り入れ自粛を申し出る。しかし、自分一人、車一台ぐらいは別にかまわないという考え方が、ほとんどを占めるだろう。私もその中の一人かもしれない。このままでは福岡市内、及びその近郊での通勤が不可能になるのは何年後のことなのだろうか。

わが愛車、カローラよ。何処へ！

なぜ書道部に入部したか

薬学部二年 金丸 祐 恵

なぜ書道部に入部したのか、理由を簡条書きにしてみると次のようになります。

- 一、とにかく字を書きたくなったから。
- 二、墨の臭いが好きだから。
- 三、書道の美しさに魅せられたから。
- 四、ひまだったから。
- 五、穴見先輩がいたから。
- 六、多くの先輩たちと知り合いたったから。

あげていくと、きりがなが、とにかく以上のような理由です。二度ほど、部に出て感じたことは、まず先生がすばらしい方であること。そして、書道をするとき、非常に静かであること。また、先輩たちがいい人達のようなものであることです。

とにかく、これから先、よろしくお願いします。

青春の価値

商学部三年 八尋厚子

青春を失うと人間は人間でなくなる、
ただらと情性で生きることではないのだ、
何の激しさも何の情熱もたずに自分の殻
に閉じこもって独りで生きていたってそれ
が何になるのか。

どうしても人間は独りだと思っても独りであることが逃げられない宿命であるならば
自分自身に向けて、ただ突進しなければならぬ。
今のうちに、とにかく動くことが必要なのだ。
けれども、どのように動けばいいのか。

わからないことが多すぎる。でも、これが青春というものなんだろう。

青春とは恐ろしいものだ。

「書道部」

法学部二年 高橋峰生

僕は小学校で習字を習った。そして今は書道部にいる。小学校では書道のことを「習字」と呼んでいた、この二つの違いはまったくわからない。高校の時書道の先生に、書道と習字はどう違うんですか、と聞いたことがある。その先生は冗談かきつい人で、「字が違ったけど、とあっさり言われてしまった。別にそれ以上聞こうとは思わなかった。それもそうだと笑いながら、心の中で「アホ」と言っていた。その後も書道と習字の違いというのは考えてもわからないのでそのままにしておいた。高校の時、僕は書道部に入学した。何とか三年間続けた。そして多くの友達や先輩と知り合った。その時やっぱり書道部に入学して良かったと思った。

それから大学に入学した時、今度も書道部に入学したが、高校の時とは違って、何といてもすへての面でけじめかかっている、練習内容も充実している。



鳥 ま さ

(春吉店)

福岡市中央区春吉2丁目9-17

TEL 731 - 4882

731 - 4635

猪の鍋物

猪のすき焼

猪の焼肉

1,200 お1人様750円より

牛しやぶ鍋・牛すき焼〔お1人様1,200〕

水たき定食 1,200円

駐車場完成 (25台収容)

営業時間 AM12:00~PM10:00

忘年会・新年宴会 御予約承ります

学割致します!!

おしやれのおてつだい

松栄クリーニング 片江店

福岡市西区片江 1299

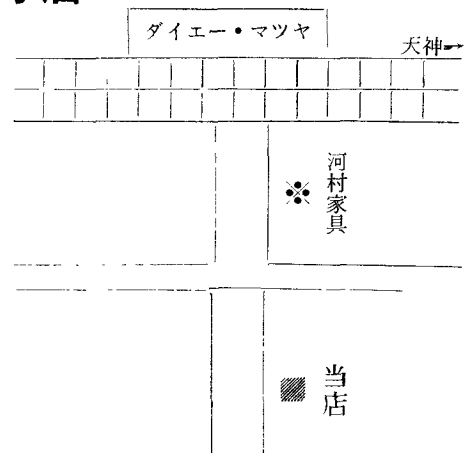
TEL 862-1441

書道用品専門店

書苑 硯 山

中央区天神3-5-3

TEL 721-1644



授業中に一考

商学部三年 堤 寛

今、火曜の三限目、ゼミの時間である。庶務から原稿をたのまれてもう一ヶ月になるであろうか、まったく何事もせっぱつまらないとやれないのが僕である。ゼミでは、「消費者用品と業務用品の購売における相違」という問題をみんな真剣に(?)やっている。当然といえればそれまでだが、僕には当然でないのが不思議である。

時々、一人になると現在の自分についてよく過去を振り返って見ることが多い。僕以外の人はどうか知りませんが、とにかく僕はよくあるんです。でもあまり真剣には考えません、僕自身、楽道家であるせいなのかもしれません。そんな時よく考えることに、俺は二重人格ではないのかという疑問です、しかし現在の社会を真面目一本やりで生きてゆくのは非常に困難なことであります。それでは、その場だけをしのいでいればよいというのではありません。あくまでも自分自身の生き方は自分で決定するべきです。僕も少しでも自分の生き方に参考になるだろうと高校生の時、人生論、青春論、恋愛論など十冊以上読みました。しかし現在自分の生活にどれほど生かされているかというところ、それは疑問です。そこでやはり真剣に自分の生き方について考えるべきです。今、勉強すべきか遊ぶべきか、寝るべきか、そんな判断はすぐにつくはずなのです。この大学生活というものが自分の人生において、あらゆる面において非常に重要な時期である事をはっきりと認識して生活している大学生

がはたして何人いるだろうか。ちゃんと認識しているのならどういう行動をとろうと俺の知ったことじゃない。とこういうふうに言うとき少し冷たいと思われる人もいると思うが、はたして社会というどこでかいものは、そんな暖かく我々をつんでくれるものであろうか。ここらで、もう一度考えなおしてはいかがかな。

私の決心

理学部二年 郡 桂子

入部動機は、要約してみると、

「登校、聴講、帰宅という単純で味気のない生活に、変化をもたせ、またその中に熱中するものを見つける」ということだ。

しかし、入部するまで、かなり考えたのだ。私は、理学部で、実験などで、時間割りはつまっているし、バイトや、家事手伝いなどで、時間が足りないのに、この上クラブをして、どれも中途半端になることなく、やっていけるかどうかという疑問にぶつかった。しかし、それまでの、生活は、私にとって、大変むなしかったし、高校までで、書道をやめてしまうことは、私には、けっしてできなかった。そうしているうちに、「書きたい」という気持ち、さらに強くなり、企てのことを、十分にやっていけるかどうか、まよっているよりも、今力を傾けて実行するべきだという結論に達した。クラブでは、書道技術の向上に努めるだけでなく、友達や、先輩や、後輩をいっぱい作って、私の宝にしたいと思います。

旅 そして

経済学部二年 松田一寿

旅……私は去年の夏の終わりに、Y氏とA氏とで、約一〇〇〇キロの車の旅をしてみました。男だけの旅、いいですね。することはやはり、酒をあびて、夜遅くまでバカ話をして、一夜を過ごすということですね。私達は四泊五日で、ボトル四本をあけてしまいました。平均一日一本です。この旅で、ともに泊まったのが一泊だけ、あとは先輩の家、フェリーの中、バンガローにとまったのです。アッ、行った所を言うのを忘れていました。それは山陰の方に、いや、山陰一周といったほうがいいですね。まず小倉から、フェリーに乗って一泊して神戸について、そして地図で言うなら、日本海の方にすうっと上っていったのです。着いた所が「城崎」。「城崎にて」という小説で有名な所です。それから松江で一泊。次に出雲大社に行つて、三び山という山のバンガローで一泊して、下関を通つて帰つて来たのであります。それぞれ見た所を書いてみると、非常に長くなつてしまうので、この旅で三つ非常におもしろかつたというか、びっくりしたことを書いてみます。まず第一は、酒を飲みすぎて三人の内一人が旅館のフトンの上にあけてしまったこと。第二に、車が動いているときに自動的にドアかあいて、落ちそうになつたこと。第三に、バンガローで泊まった時、三人の内二人か飲みすぎて知らない家から、カまきカをだまつて取つてきた事……。

とにかく男三人、車の旅。とてもユニークでおもしろかつたですよ。

その時の写真があります。見に来て下さい。みんなも旅をしよう!!

DISCOVER JAPAN

大学というところ

経済学部二年 原田 明

大学という所が、ただ単に学問をするだけの場所であるなら、何も高い金を払つて大学に来る必要はないではないか。だのに我々が大学に来たいと思つたのは、そこに学問を越えた、より大きな人間としての成長を求めたからではなかつたか。高校卒業の際、一人の先生からこう言われた。「大学へ行って勉強しようと思うより、まず様々な友達を知り、様々な生き方を経験しろ。」と、まさに、この言葉どおりだと思う。そして、それらを通じて何か自分なりの思想を生みだしていかなければならない。その思想というのは、波瀾に満ちた青春から生まれると思う。安全な道はかりを選び、俗にいう「おりこうさん」になつてはならないと思う。人間、馬鹿になることも必要ではないだろうか。

サークルの味

法学部二年 米島邦章

サークルの味とはどんなものかと他の人から聞かれると、ズバリとした答は自分自身まだよくつかめないが、何となくその味が、最近わかり

はじめてきた気がする。入部当初の自分のサークルに対する考え方と、一年過ぎた今の時点での考え方が、まるっきり違う、それはなせなのか？ またどうしてそう変化していくのかと考えてみる。普通この様な事は当然の事かもしれない。年令をとるにつれて変化していくのが、あたりまえだと言う人もいるかもしれない。しかし、僕はそのサークルに対する考え方の変化にサークルの味というものを見い出す事ができるような気がする。それはまず、自分のまわりのサークル員からの刺激、それに対しての反応、この反応をいかにして自分のものとして取り入れる事ができるかは、自己しだいだと思う。この刺激に対しての反応により自己を振り返り、新しいものを見い出す事が少しでもできれば、少々サークルの味というものがわかるんじゃないかと思う。サークルに僕たちが居ることにより、その味がみんなにわかっていけばすばらしいサークルの味というものができると思う。

四年間ガンバルゾ！

商学部二年 桑原淳一

以前、運動ばかりしていた僕にとって、文化クラブへの入部を決意することは、岩田屋の屋上から飛び降りる程の決断を要しました。ある学者は、「これはノーベル賞に値する。」という学説をとなえました。

書道部というと、第一に、女子クラブという印象が強かったのですが、入部してみると、なんと、男子が多くて（男みたいな女もいます）心強いやら、ガツカリやらの複雑な心境です。

たは自分は身まだよくつかめないか、何となくその味か、最近わかり

先輩達は非常にやさしくて、書道の指導からコンバの後始末までやってくれました。だんだんクラブにも慣れて来て、勝手かわかったので、これからは先輩に迷惑をかけず、自分で進んでやって行きます。とにかく、四年間やめることなく一生懸命頑張って、書道部に入って本当に良かった、と思うようにしたいと思います。

最後に！

早く先輩になって、コンバをしたい

ねっ！高橋君！

「はたちまえ」

商学部二年 高原美登里

十代の最後を迎えた今、振り返ることを知らず、あてもなく歩いて来たような気がする。そして、今後このように歩き続けてよいのだろうか疑問に思う時がある。平凡な毎日がいやだというのではない。でも、何か一つでもいいからかけてみたい。たとえ、それが何であろうとも、他人が何と言おうとも、私は私なのだから、私の青春なんだから、束縛されるなんていや！

失敗を恐れずにぶつかっていこうよ。くじけてはいけない、投げだしてはいけない。人生は二度と帰ってきやしないんだ。この大切な時間を『はたちまえ』の課題として、精一杯私なりに生きていきたい。



喫茶、スナック

大学団地入口

TEL 871-5512

モア

PM 8:00 ~ AM 1:00

一級技能士

表具師

表額 装装 樋口吉春表具店

福岡市西区曙 2丁目2 - 23

TEL 841 - 2524

総合結婚式会場

大小宴会場

コンパ同窓会

ご予算に応じ承ります

中華料理 平和楼

本店 福岡市中央区天神2丁目6 ☎ 771 ~ 4141

大濠店 福岡市中央区大濠公園2区 ☎ 761 ~ 7252

書道部に入部して

人文学部三年 木村直子

私が入部してから一年たらずですが、クラブに入部する以前と比べて、とても幅広い経験をしたと思います。入部後、まもなくしてから錬成会と夏季合宿の二つが続けてあり、いろんな人と会う機会もでき、またこれをきっかけにしてクラブの中に溶けこめたと思います。しかし非常に疲れました。特に夏季合宿は、書いて食べて寝るだけの生活でした。その中で・時間の価値と自由のありがたさがよくわかりました。先頃、すませたばかりの春季合宿には練習はないのですが、これは頭の方が狂いそうになるくらい疲れました、でも阿蘇の中岳に登ったことはいい思い出になったと思います。

僕にとって書道とは

工学部二年 河野龍二

書道の経験のない人に「書道とは？」と問うならば、手習的な意味で、「それは、字をうまくするための手段だろう。」と答えるのではないだろうか。

僕にとっての書道とは、まず、自己を暗黙の内に表現する最高の手段であり、書けば書くほど果てしない魅力に引きづり込まれてしまう。書

道には、そんな確かにつかみ得ない何かがあるように感じられる。

今は亡き元首相佐藤栄作氏は、どうしようもない難局に直面した時、ひとり部屋にこもり、筆を取っていたという。これは一種の精神統一の意味と、自己の不満を代償化する手段として使っていたのであろう。

それぞれ個人によって書道の価値感も違うだろう。しかし、そこには人それぞれの個性や性格が表わされてくる。ひいては思想も引き出されるかもしれない。また自分自身、自分の思いが、徐々に、にじみ出てくるような書に近づきたいと、思っやまないものである。

「書道部」

商学部一年 原千尋

書道部に入部する事は入学前から決めていたので、何のためらいもなく入部してしまった。そして、この文を書く段階になってから、何のために書道部に入ったのだろうと思ひ始め、こんな気持ちで入部すれば、後悔するだろうし、他人に迷惑をかけるようなことになれば、自分としてははなはだ不本意なことなので、もう一度考え直そうと思ひ、三日後、先輩に相談に行き、その旨をお話した。たぶん、きつくお叱りを受けるだろうと覚悟していたのだが、先輩は、とにかくやってみることを勧めて下さった。

そういわれた時は、まだピンと来なくて、ただ迷うばかりだったのだが、色々考えているうちに、自分は食わず嫌いなんじゃないだろうかと思ふようになった。

まずいものは、食べて初めてまずいとわかるのだし、楽しい事もそれをやってみて楽しいと感じるのだから、すべてやってみなければわからない。そう思ううちに、やっぱり書道部に入る気になった。

ずい分単純な人間だと自分でもあきれられるが、今のやる気を大切にしようと思う。

当り前の事だけれど、四年間楽しく、充実した書道部での生活を送りたい。

尚、先輩が大変気軽に話しかけて下さる事や、親切に相談に乗って下さった事を、大変うれしく思っています。

あ　こ　が　れ

法学部一年 横山久子

私は、大学に入ってやっとクラブに入ることができました。中学高校と、その方面にあまり積極的でなかった私は、先輩後輩の友人関係やクラブの雰囲気はひそかにあこがれていたものです。でもそれが現実になりつつあり期待と不安で一杯です。

六年間接してきたキリストの教えの中にも考えさせられた事や教えられたことが数多くありました。でも父この様に全く違った世界、大学という大きな場所で人の波だけに押されずこれからの四年間高校では得られなかった何かを見つけよき友人と巡り合い充実した大学生活にしてくださいと思っています。

今までもそうでしたかこれから先もこの言葉を心の支えとして大切に

堂 香 晚 池 菊

福岡市中央区六本松 3丁目 12 - 24

TEL 092 - 741 - 0897

天神ビル地下

高級中国料理 **香 港 飯 店** ご存じですか？

御家族
お友達
グループ

連にて一度香港飯店の御料理

御賞味下さい



いらっしやいませ

味で自慢の店です一度食べれば二度食べたくなる店です

ぜひ御来店御試食下さい

してゆきたい。

//私は確心する

死も生も 天使も支配者も

現在のものも 将来のものも

力あるものも 高いものも 低いものも

その他 どんな被造物も

わたしたちの主イエスキリストにおける

神の愛からわたしたちを

引き離すことは出来ないのである。

この一年を省みて

商学部二年 鹿毛博郁

大学に入学して一年と二ヶ月が過ぎようとしている。今この一年を振り返ってみて自分に満足すべきものがあつただろうか。無駄に過ごしたのではないかと思わずにはいられない。入学当時は何かしらの希望や夢があつた。それは具体的にはわからなかつたにしろ、ただ今までと違つた生活の変化を期待していたかもしれない。しかし、今はその一部でもあるだろうか。この一年、自分自身に三無主義を正当化させ、甘えを捨てきれずにいた。特にそう思うのは、同じ年で社会に出ている友達と抜けた時だ。自分一人が取り残こされていく様な気がする。

これから、大学生活において満足すべきものにするためには、自分を見失わず、今までの自己の観念を変える必要があるのではないか。

他にクラブは大学生活の一思い出となつてほしい。又、自分が書道部員であると思つて言えるように成れたらと思つた。

峠への道

法学部三年 山口 真由美

日本は山国である。だから峠が多い。人間は峠を中にはさんで、それぞれの平地に住んでいる。そのために峠を無視しては生活が成りたない。近代乗りものの発達のおかげで、昔のように直接に峠を歩かなくすむようになった。こうしたことから昨今では坂越のつらさは、遠い日の思い出の中に、わずかに生きていることになつてしまつた。

だが、良きにつけ、悪しきにつけ、やはり峠は人間の生活に密着している。路か担々としていれは、たとえ少々の重荷を背負つても、そう歩くのにつらさは感じない。しかし、坂道はえてして険阻な上に、路面は荒れ、歩くほどにきびしさがつってくる。だから並大抵ではない。そこをとうやうや歩いて歩き続け、苦しさを耐え忍んで、息災に目的を達するかが問題である。

私が別府へ旅したときのことである。あのなだらかな坂道を、黙々と登って行くのは、実に単調なものだった。が、後を振り返つて青い海を望んだときには、何ともいいようのないすがすがしい気持ちでいっぱいだった。つまり、我々の人生行路をまどかに遂行するには、どうしたらよいかという心情が大事なのである。今、その時を稍一杯生きていけるならば、後に振り返つた時、きつとあの海を見ることができるとは

ないだろうか。まったく峠みちは、人間の一生の縮図のような気がしてならない。

校内での奴

法学部一年 上田 信一朗

小生、書道部に入部して、約一週間が過ぎた。学校も入学して少々、変化しているように思われた。学校というか、学生の動きが違って見える。一年は、というか、小生の友達に、慣れて落ちついてきた。最初は校内を時間の余りの限り、歩き回って疲れていたのが毎日のようであった。図書館へも行く。(何をしに行くかという点、昼寝または雑談。)講義中も寝て、図書館でも寝る。奴はいい、夜は何をしているのだろうか。ソフトボールをする曜日・時間まで決まって「東」の者とやっているようだ。講義をさぼってまでしている奴。果たして、それは誰だろうか? 昔は、草むしりに玉拾いしていた奴が今、張り切っている。まるで、その為に学校へ来てるようだ。そんな奴と付き合う人は、大変頭を痛めているようだ。何ととっても、校内を二人並んで歩いているのを見ると、うらやましがらる奴。毎年二月になるとでてくる歌は、『受験生ブルース』。あの中にもあったのだが、公園でアベックを見ると石を投げたくなる。全く、それと同じ気持ちであろう。たかが仲良く歩いているだけで、どんな関係かわからないのに。奴も女(ともだち)をつくれればいいのに。と、小生はいつも繰り返す言うが……奴だけではないのだ。殆どの人が、思っていることだと思ふ。まだ四年間もある。のん

は相談のご健康とリクス

品薬きろと

福岡市西区鳥飼5丁目13-6

TEL 821-1591

夢を売るお店

GIFT SHOP

至
荒江

至
天神

・別府橋
・六本松

友泉第一

田島

福大

◇江島屋2F

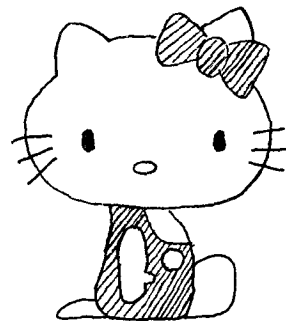
江島屋2Fテナント

アクセサリ

&舶来雑貨

TEL 861-0152

博多店 451-1370



エイコ

びりいこうではないか。「いつかチャンスは到来する。」と思って講義にでようではないか。学校に来るのは何の為であろうか？ 奴は、第一に相手をつくること。第二にソフトボールをやることだという。小生は、第一に講義。第二に書道である。単位を落とさずみんなかんはりましょう。

振り返って

法学部二年 川原 清美

私が大学でのこの一年間をどう過ごしてきたか、今振り返ってみてい。今まで振り返ってみることをあまりしなかったようだ。

私にとってこの一年間はクラブに対しては何に對しても、ただついで行くだけで自分からやろうとするところが少なかったような気がする。又、その余裕がなかったといった方がいいかもしれない。でもそんな中からでも自分にとってプラスになった面がたくさんあったような気がする。その一つにたくさんの友だちを通して（もちろんクラブ内の人も含めて）「自分」というものを、まだぼんやりとはあるけれども、遠い所から見ることができたような気がする。

これからは、何をやるにしても「私」というものを失うことなく行動しなくてはだめだと思っています。



「春に思う」

商学部一年 八谷 俊彦

空も野花も風も樹も、五月の装いに変わり、大学生活も一月が過ぎました。と同時に、書道部員として、確かな足音が聞こえ始めているところです。さて、僕が何故、書道部に入ったかと申しますと、大学生活を高校の延長にしたくなかったからです。まして僕のように、高校時代を、ただばく然と過ごしてきた者が、中学の延長が高校であったように、高校の延長か大学になってしまうと、何も得るところがないように思えてなりませんでした。だから、高校で書道のクラブに入っていた訳でもなく、また、塾などに通ったこともない僕が、ただやってみようという気持ちだけで、何かをつかもうと入部したということです。原稿用紙二枚に書け、ということでしたが、これが限界です、あらためて先輩の皆様、よろしくお願いします。

「これから」

法学部一年 村瀬 和美

私が、この福岡大学に入学して、アツという間に、一ヶ月余りが過ぎてしまいました。一応大学の雰囲気にも慣れてきたところで、さっそく書道部に入部しました。私は高校時代にクラブに入っていなかったので

なおさらに何かクラブに入りたいという願望をもっていたからです。又、クラブに入っていないなかったために、「クラブ一というものに、今」とまどっている状態です。

私は、小学校の低学年の時、習字をしていましたが、これが全然へたで、イヤでたまらなかつたのを覚えています。しかし、もうすぐ十九才にもなる今、精神の統一と、毛筆の上達をめざして一生懸命練習します。そして、これからいろいろな問題などが生じてくると思いますが、なんとしても四年間続けるという気持ちでがんばります。まだ、書道部に入ったばかりで、部のことについて全くわからないので、これからよろしくご指導お願いします。

我が下宿生活 PART II

経済学部三年 嘉村 浩之

この題名は、去年の荒鷲で下宿生活について、「つやあーに」書いたものですから、今年もPART IIでせま〜てみました。

下宿といっても、僕の場合は外食だから、間借のようなものですか、どうしても不規則な生活になります。しかし、不規則な生活といっても、いい意味でとれば、いろんなことができるということですね。例えば、マージャン・トランプ・花ふだなどです。早朝は、ソフトボールをやっています。だいたい、僕の下宿は10人いますが、クラブにはいつている者は僕だけです。他の者は、それなりにやはりひまな時間を活用しているわけです。僕は、この下宿に一年の時からいるわけですが、

書道用品の店

はやし商事

北九州市小倉北区紺屋町 11-10

TEL 093-531-5231

東七隈

倉福大

ヤマエ石油

七隈SS
888888

七隈四ツ角

日本石油特約店

ヤマエ石油株式会社

七隈絵油所

TEL (801) 3311

生活面をふり返ってみると、どうしてもクラブ員（主に先輩）とのつきあいに比重をおいてきたような気がします。でも、それはそれなりに得るところはあったと思う。

要するに、下宿生はどうしても、下宿のつきあいに走ってしまっていて、クラブを軽く見てしまうようになりがちだから……。その点をもう少しゆうずうを気かせて、下宿にこりかたまらないようにしたいものだ。特に一、二年生の下宿生に望むものである。

クラブ入部に際して

法学部二年 吉田 富美子

もうすぐ二十歳。生きていく上でいろいろと考えさせられる季節のようです。自分として、そしてまた女として。

私は一年のとき、あるクラブに席を置いていました。しかし、そのクラブも夏の合宿が過ぎ、前期の試験も終わる頃には完全に飛び出してしまうていました。どうして飛び出してきたのだらうと、後で言い知れぬ気持ちを感じました。クラブにぶつけきらなかった自分がぐくぐしくてたまりませんでした。

そういう中のはけ口、そして自分の新しい出発の道としてこのクラブに入ってきた以上、これから後悔はないように過ごしていきたく思います。自分らしく、背伸びすることなくまたくしけることなくやっていきたいと思えます。

今、私の机の前には、私の好きな宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の詩

福岡市中央区六本松4丁目1-16

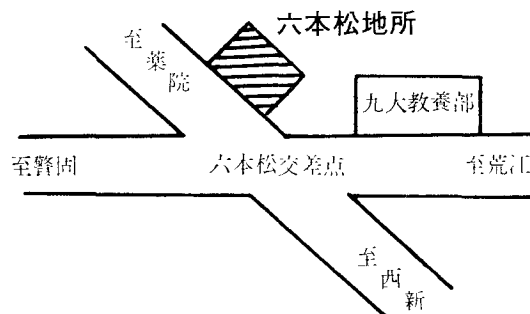
土地・家屋・アパート

六本松地所

代表者 齊藤 忠弘

TEL

771-6859



と、今日かかげた、「自分らしく生きる」という文句があります。この一年、この言葉を頭に浮かべつつ、自分というものを生かしていきたい、と思っています。

書道部に対して

経済学部一年 明 神 唯 司

僕が、この書道部に入部したのは、書道をしてみたかったのはもちろんのこと、友達をつくりたいと思ったからでした。

高校時代は何もクラブに入らず、目的も無く、つまらない、悔いの残る高校生活を送ってしまったので、大学に入ったならば、ぜひクラブに入って、色々な活動に参加し、なるべくたくさんの人と接し、意義のある大学生活にしたいと思っていました。

クラブに入る時は自分に合ったクラブがなかったけれど、小さい時に少し習字を習っていたので書道部に入部することに決めました。

しかし家もかなり遠く、通学だけでも大変なのに部に入って、やって行けるかどうか不安でした。それに、小さい時に習字を習っていたとはいえかなり前のことでとても下手だったのでかなり迷いました。やはり入部してみると練習もきびしく、通学などでかなり疲れるけれども友達もできて、すこしは充実した楽しい生活をおくれるようになったので、入部して本当によかったと思っています。

今は一日も早く、部の活動や練習になれば、一生懸命頑張って行きたいと思っています。

白いあこがれ

薬学部三年 宮 崎 由 紀 子

ふと雑誌を手に取り、何気なくページをめくると、皮肉にもレースのたくさんついた純白のウェディングドレスが私の目に飛び込んできた。

「オニも十八、番茶も出花」の時期も過ぎたけれど、廃れがあるのもこの世のおもしろさ。普通なら、乙女と言うにゃ、そろそろ墓が立ち始める年頃。」立てば茶柱、坐ればオトメ、口を開けばガキチツク。「いいのだ、いいのだ、ビールは純生、野菜は旬、私じゃ永遠の乙女(?)なり、ゴーイング・マイ・ウェイと居直ってはみても、心のどこかにおき去りにしたささやかなあこがれ。」

過去ものは、美しく結晶をなし、新たなこの日の白いレース、今から果たして、どのように染め上げられていくのだろうか。もしも、華やかに色どられていったとしても、どこか隅にひっそりと、この時の一つまみの純白を残しておきたい。

命短かし恋せよ乙女……。

大学生活に思う事

商学部一年 田 中 孝 路

大学生というものになってみたかったから進学した。今までになかっ

た新しい世界だ。いろんな面で自由を与えられている。しかし、それなりに責任も重くなったのだと思う。私立高校を出た私は、この事を強く感じる。

高校の時、M先生がこんな事を言っておられた。「自分を叱ってくれる人がいたら、その人をありがたく思え、自分を殴ってくれる人がいたら、その人を先生だと思え」。つまり、自分を叱ってくれる人を大切にせよということだが、入学してそろそろ一ヶ月、まだ殴られず、叱られずにいる私は、叩られるのが懐かしくなってきた。こんな世界にいるとやっとM先生が言われたことがわかってきたような気がする。

私は大学で何らかのクラブに入ろうと思っていたが、何にするか決めていなかった。こんな私に身内の者が書道部を勧めるので、ここに入部することにした。何のクラブにしろ、とにかくクラブというものに入っ
てよかった。沢山のひと知り合えて、いろんな人とつながりをもつことができたからだ。このことは私にとって、うれしいことであるし、とても大事なことであるとも思われる。

一人で生きるということは困難であるし、とにかく寂しいことだろう。これはどの世界においても言えると思う。だから、私はもっと多くのひとと知り合って多くの友をつくりたい。

「運命」

経済学部二年 大山 一則

私は、暇な時などよく近くの山に出かける。その時も、舗装された山

道をとぼとぼと歩いてた。ふと足元を見ると、コンクリートのちよつとした亀裂の上に、小さな、(種類はわからないが、)花が咲いていました。そしてほんの四、五センチ隣を見ると、柔らかい土の上に、同じような花が咲いていました。このコンクリートの上の花は、恐らく風かなにかで運ばれて、偶然、そこに種が落ちたのでしょうか……。

偶然ただそれだけのことはあるが、花にしてみれば、こんなコンクリートの上より隣りの柔らかい上の方がいいに決まっています。私は、何か運命的な物を見たような気がして、そこにしゃがみこんで、暫く花を見ていました。しかし、花は何も言わず、その運命を受け取っているかのごとく、ただ可憐な花をこちらに向けているだけで、それがあんまりいじらしかったので、私はその花を隣りの柔らかい土の上に移してやろうと、花に手をやろうとして、おもわずやめました。その花に、そのかせられた運命を全うさせてやろうと思っただけです。

花がコンクリートの上に偶然に落ちてから、その花の運命が始まり、そして、隣りの花に負けず、劣らない花を咲かせ、みごとにその花は自分にかせられた運命に勝ったのだ。私がこの花を隣りに移したところで、もうこの花は枯れるだけである。

この間、ほんの数十分であったが、私はこの花に考えさせられた。そして、あまりにも自分は、柔らかい土に育っているのではないだろうか。



教育ということ

経済学部三年 高田直記

戦後、特に乱塾時代と呼ばれているここ数年の学校教育、家庭教育は、現在の最も好ましがらざる社会の一面面を、赤裸裸にしているものとしてとらえることができる。それは、塾通いしなればならないような学校教育、こま切れの詰め込み教育が、子供たちに気ぜわしい列車ダイヤ式の生活表を提している状態からも言えることである。陽光うららかな日々が訪れ、緑色の風がささやく季節になっても、家の近くの小学校の校庭では、放課後になっても、元気に遊ぶ生徒の姿は数人しか見あたらない。親の見果てぬ夢を、実現させてやりたい気持ちや、自愛による干渉とかが子供に対する健やかな成長を願う切実な想いとすり換えられている。そのような思いが子供達自身のやる気や、創意、個性を伸展させる妨げとなっていることは、誰しもが異することのない事実である。今の日本の子供は牛々、息苦しい環境の中で、ますますせこましく、ねじ曲げられ、ねじ伏せられながら育てられてはいないだろうか。このような子供達が我々の後輩となり、又、我々の後世を担う主格たる人物となるということを考えると、何だかものさびしさが先に立つ。現代の社会が造りあげていった学歴社会の弊害も又、多いことであろう。今の学歴社会にいう「学歴一」、「学歴偏重」の現代にとつての「学歴一」とは一体何なのか？ただ「大学卒一」という肩書きをもって、社会に出てもいいものかどうか？そこで考えなければならぬことは、「学

歴一」とは、学びし歴史であって、社会が「どの程度の学校を出たか」と評価するものではあっては決してならないということだと思ふ。各個人が何らかの形（勉学・サークル活動など）で自己錬磨した過程こそが「学歴」の真髄であるといえるのではないだろうか。

まだ、これからも続く、学生生活の一コマコマを有意義に過ごし、その過程で得た教訓を社会に出て、その社会に還元することこそ、真の「学歴」という語が示す役割を果たすのである。古人が言ったように、「かわいい子には旅をさせろ」というような家庭教育と同時に、本当に子供達の為になる（能力・個性・創意を伸展させる）学校教育を望むし、又、親にも、個人の個性を十分に引き伸ばし、隠された才能をひきだし、子供達に自己錬磨をさせるといった人間性のある真の「教育」というものを、社会に望む気持ちでいっぱいである。

新入部員プロフィール

経済学部一年 明 神 唯 司

通学に往復六時間程かかりますが元気に通学しています。趣味は犬気のない川に近くの池で釣りをすることです。

経済学部一年 福田 美由紀

小さい頃からの夢は歌手。高校時代の夢はモテモテの美人になること。そして今、誰からも愛される人間になりたいな。

うちみ・ねんざ・筋肉痛に

フジパップは、すぐれた成分がヒブに浸透。患部の熱・ハレ・痛みをとって、筋肉や神経の働きをスムーズにします。はりかえは1日1回。すぐ乾くことなく爽快感が持続します。



包装・4枚入・8枚入・12枚入

ペタンと湿布 フジパップ



f フジサワ

表 装 ・ 額 ・ 屏 風

上 田 一 茶 堂

福岡市中央区大宮 1 丁目 5 - 18

TEL { 5 3 1 - 2 8 5 2
5 2 1 - 5 8 8 1

商学部一年 八谷 俊彦

春ですわね！ みなさん今日は。

高校に引き続き大学での語学授業も早くもリズムにのりました。

先生…八谷君。読んで訳しなさい。

僕…ハイ！していません…頑張ります。

商学部一年 吉富 利栄子

貿易学科です。陶器の里「有田」から来ました。洋画が好きで、読書が趣味で、時々家が恋しくなる女の子です。どうぞよろしく。

工学部一年 島村 友博

熊本工業高校出身。柔道初段、経験六年（六年もやったけどやっと初段です）

ガニ叉にはならなかったみたい。好きな事は、ロックを聞くこと、特にELP・YES・PURPLE・etc.

法学部一年 上田 信一朗

福大の西田敏行。古賀町のアラン・ドロンこと上田信一朗。ヨロシク。

経済学部一年 原田 明

三月三日のひなまつりにこの世に出現。

日田出身で、「潔」さんの後輩です。山ばかり見ていたので、福大が海辺になくて実に残念だ！

経済学部一年 永井 均

青い国、四国からはるばる海を渡ってやってまいりました。将来、フランスに行ってみたいと思っています。はやし夢が現実になる事はかり考えている男なのです。

法学部二年 吉田 富美子

我が尊敬に値する人、チャップリン、そして先輩。好きな人、中村雅俊。これからはバカになっていくつもり、ヨロシク！

工学部一年 森田 健二

自修寮四一〇号室、出身校、大分県立大分雄城台高等学校、特技、趣味、剣道、野球、ケン球、走ること（石庭まで走る会員）。好きな言葉と好きなこと。"ふれあい"以上。

商学部一年 扇 寿美子

いろんな人に出会いたい！これが私の願いです。尊敬する人、それは一時間以上かけて通学する人。

理学部一年 木谷 利文

島根県立松江南高出身。できるかぎりのことを精一杯して幸福を感じたい。スポーツ好きの男です。

法学部一年 久保山 豪

僕は東福岡から来ました。先輩方は東と聞くとすぐ笑われますが、東

は名門校です。笑わないで下さい。
今後ともよろしくお願いします。

商学部一年 桑 原 淳 一

巨人優勝ノ 巨人V2ノ クラウンV1ノ (地元のよしみ) くだば
れ阪神。巨人ファンの僕。

法学部一年 高 橋 峰 生

東福岡高校出身。昭和三十四年生まれで。一番若い男ノ
法学部在籍中、よろしくお願いします。

商学部一年 田 中 孝 路

大濠出身。眠ることが大好きです。誰も起さないと十二時間はかるく
眠りつづけます。強く生きることを目標にしています。

天皇陛下万才ノ

法学部一年 横 山 久 子

高校時代がなつかしく思われていた今日この頃、このクラブに入部し
てそんなつきあいがないがしたいな……。音楽と動物愛好家のわたし、字を書
くことは苦手、天秤座の女の子です。

法学部一年 村 瀬 和 美

長崎県壱岐郡出身。字を書くことは苦手。字を書くことは大嫌い。で
も野球を見ることは大好きです。

商学部一年 原 千 尋

田川市から来ました。炭鉱の跡と暴力団ノでもよい所です。生粋の田
川人であります。今後ともよろしく。

理学部一年 郡 柱 子

自宅は東油山。近いでしょう。遊びに来て下さい。好きなことは書
道、ピアノを弾くこと、スポーツ(ソフトボール・水泳)。よろしく

薬学部一年 金 丸 祐 恵

書道との関係は、五年間。入部して、書道と、それに友達とのつきあ
いを深いものにできればいいなあと思っています。



規約

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

一、書道に関する事業

一、書道に関する調査研究並びに機関誌などの刊行

一、関係団体との親睦ならびに連絡提携

一、各種展示会出品

一、その他前条目的達成のため必要と認めたる事業

第二章 組織

第四条 本部は講師及び部長各一名を置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

一、役員会

一、部員総会

一、OB会、但しOB会規約は別に定める。

第三章 役員会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条 本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条 本会は幹事によって召集され代表される。

第十条 本会は毎月一回以上開くことを原則とする。

第十一条 本会の議決は、部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部員総会

第十二条 本会は本部の最高議決機関である。

第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条 本会は必要に応じてこれを開き、幹事がこれを召集する。

第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼務する。

第十六条

一、本部会は部員の過半数を以って成立する。

一、本部会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否回数の場合、幹事がこれを決定する。

但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定に

は、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条 本部会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成を以って

仮議決することができる。但し、

一、仮議決については事後部員総会に於いて過半数の承認を必要とする。

一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条につき、外部関係諸団体へ役員を派遣することができる。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。

但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異つても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

但し、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。

尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行なう。

第六章 役員 の 職 務

第二十四条 役員 の 職 務 は 次 の 通 り で あ る 。

一、幹事は部務を処理し、部を統括する。

又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。

一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。

一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する収支の記録決算書を作成。

一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそつて諸活動を企画する。

一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の徴収保管をなし、機関誌の発行を行なう。

但し、機関誌の発行は年一回とする。

一、第五章第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章 会 計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとす

る。

第二十六条 本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会に於いて決定しなければならない。

第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。

一、本部に於ける選挙権、被選挙権を有する。

一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

一、部員は部員総会に出席すること。

但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。

一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。

一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部・退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登

録及び入部金納入を以って部員とする。

第三十一条 本部の退部は書面を以って幹事に願ひ出て、役員会の承認を得、部員に通達する。

但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納する。

第十章 罰 則

第三十二条 書道を研究する熱意なく本部の名譽を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者。又、部の秩序を乱す者は部より除名する。

但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約改正

第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会に於いて部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。

尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要とし、その出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附 則

附 一 本規約は、昭和三十五年十一月より実施、昭和四十五年

四月一日改正。

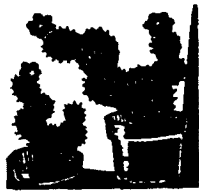
編集後記

書道部機関誌「荒鷲」も今回で18号の発刊となりました。

この「荒鷲」をより多くの部員に目を通していただくことにより、大
学に於けるサークルの存在意義、目的などサークルの本質にふれるぎっ
かけとなり、また、自己に固執することなく、サークル内に於ける他の
人をも知ることにより、日頃、自己に閉じこもりがちな活動を打破し、
部員の相互理解が成されるものであると確信しております。

この「荒鷲」の発刊を機に、全部員が社会やサークルという組織に対
しての認識を強化し、書道部のより一層の飛躍・発展を目指して活動し
ていこうではありませんか。

尚、機関誌「荒鷲」発刊に際して御協力、御指導下さった多くの諸氏
に対し、この紙面をもって厚く御礼申し上げます。



「荒鷲」 第18号

昭和五十二年九月一日 発行

荒鷲 編集委員

発行責任者 堤 寛

編集責任者 高田直記

山口 真由美

発行所 福岡大学学術文化部会書道部

〒八二四 福岡市西区七隈十一番地

電話 八七一〇四七二

印刷所 福岡刑務所作業課

〒八二二 粕屋郡宇美町大字宇美二四〇〇

電話 〇九二九三(三)〇三九五(九)